

1. 三田の水道の歩み

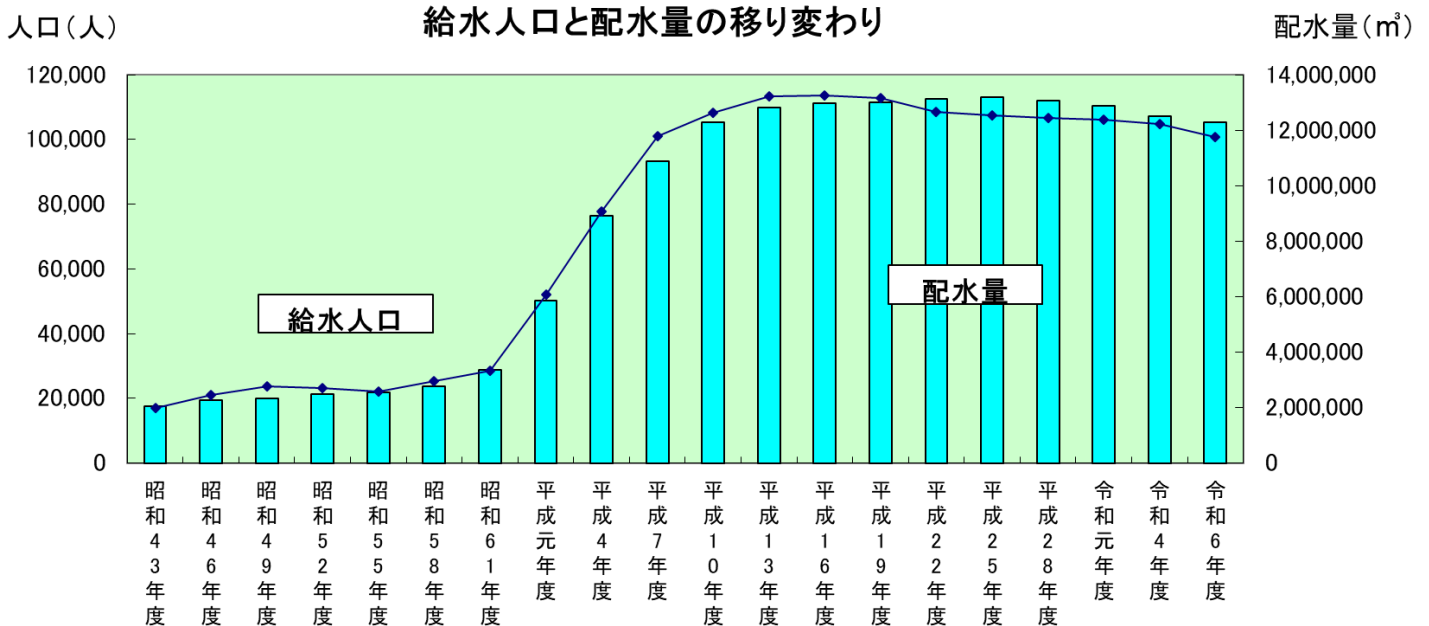
三田市水道事業は、昭和 11 年に旧三田町が水道を創設したのが始まりです。

当時は水源が武庫川しかなかったため、三田市になってからも旧三田町と旧三輪町の 2 町しか水道はありませんでした。この間、幾多の渇水と洪水に苦しむ中、三田のまちづくりのために水源開発は欠かせないとして、先人の苦労と、多くの関係者の協力により、昭和 61 年に待望の県営青野ダムが完成し、皆さんに安定して水道水をお届けできるようになりました。

水道事業においても浄水場や簡易水道の統廃合、給水区域の拡張事業などを展開し、全国平均よりも高い水道普及率(99.42%)を達成することができました。

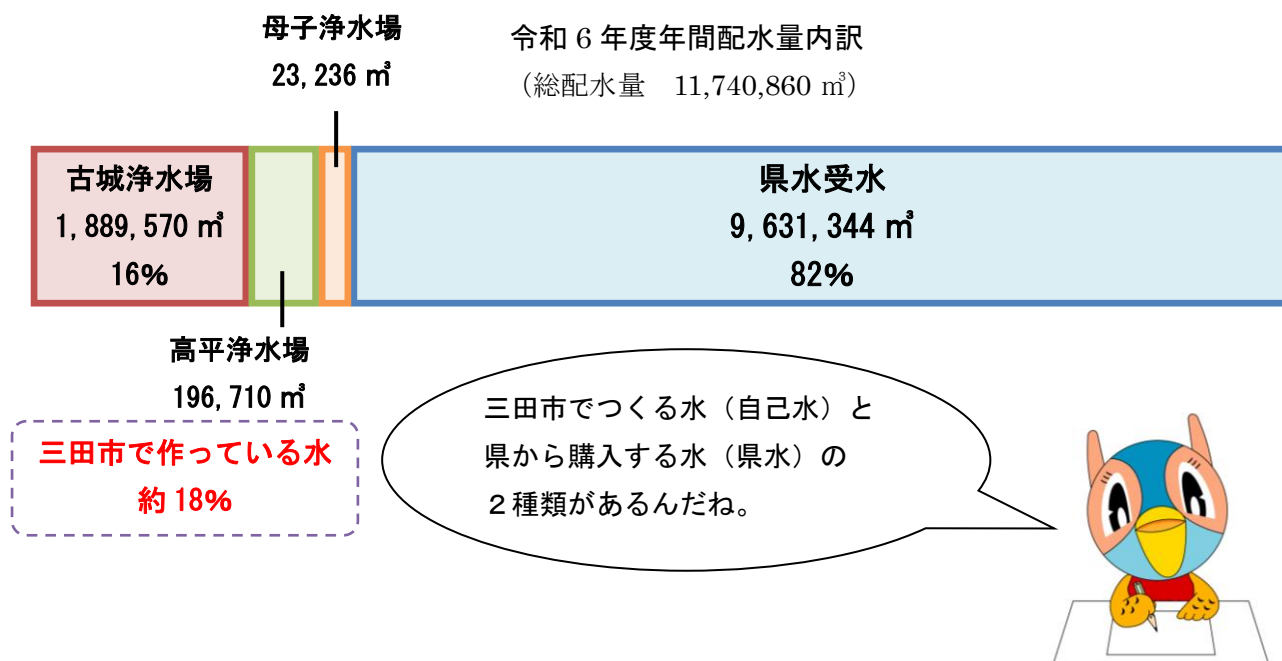
三田市水道の歴史

昭和 11 年(1936) 7 月	旧三田町水道事業創設
昭和 33 年(1958) 7 月	三田市誕生
昭和 35 年(1960)12 月	第 1 次拡張事業
昭和 42 年(1967) 6 月	異常渇水
昭和 56 年(1981)10 月	北摂ニュータウンの入居開始
昭和 61 年(1986) 5 月	青野ダム完成
平成 8 年(1996) 4 月	浄水場統合整備事業
平成 12 年(2000) 4 月	第 9 次拡張事業開始、未給水地区の解消
平成 18 年(2006) 1 月	水道事業と簡易水道事業の統合
平成 25 年(2013) 4 月	水道お客さまセンターの開設



三田市の水道はまちの発展とともに拡大してきました。昭和 60 年代以降のニュータウン開発による人口の急激な増加に比例して水道の配水量も増加しています。令和 7 年 3 月末時点では給水人口 10 万 5,330 人、年間総配水量 11,740,860 m³、1 日平均配水量 32,167 m³となっています。

現在、三田市の水道水の約 8 割は兵庫県営水道から購入しています。



[コラム]三田の水 今昔 ~古城浄水場~

古城浄水場（当時は三田浄水場）は、まだ三田市になる前の旧三田町だった昭和 12 年 11 月 30 日に竣工しました。

古くから三田市は、水に乏しく干ばつで悩まされ、その反面大雨等による洪水にも悩まされるということが繰り返されてきました。

こうした中で、上水道の整備は人々の長年の願いであり、日々の生活にはもちろん衛生面・防火面からも欠かすことの出来ない事業として早急に進めなければならない課題でした。

そこで、昭和 11 年 8 月、三田大橋付近に下山取水場を設けて武庫川の伏流水を取水し、ポンプで古城浄水場に汲み上げ、ろ過池で浄化し、給配水する計画を認可申請し、昭和 12 年 1 月 14 日工事施工の認可がおりました。同年 11 月 30 日には第 1 期工事の竣工（計画給水人口 6,000 人、計画 1 日最大給水量 800 立方メートル）、給水開始となったのです。



古城浄水場
竣工記念碑



現在、最新の技術が導入されている古城浄水場ですが、当時の緩速ろ過装置（現在は粒状活性炭ろ過・急速ろ過）は、ろ過砂の入れ替え作業はすべて手作業でおこなわれ、脱臭装置や計装設備等もないものでした。